

産学連携について



一般社団法人 日本航空宇宙学会 第45期会長 李家 賢一

日本航空宇宙学会は、1934年に創設された日本航空学会を礎として活動を行っている学会です。航空宇宙に関する学術研究と技術についての発表や知識の交換、情報提供等を行うことを目的としており、この分野に関する我が国唯一の学会であります。現在、正会員3,500名、学生会員1,000名弱、そして賛助会員55団体等から構成されています。日本航空宇宙工業会殿の会員企業ならびにそこに勤務されている方々の中でも、多くの方に当学会の会員としてご活躍いただいています。

さて、産学連携の重要性については、ここで繰り返すまでもありませんが、共に航空宇宙界に席をおいている貴工業会と当学会にとって、お互いの活動の連携により、航空宇宙産業および学会活動の活性化をはかることは、日本の航空宇宙産業の発展に貢献することが大だと思われます。

この産学連携の活動をより促進するために、昨年度、貴工業会と私の前任者である川口淳一郎第44期会長との間で話し合いが持た

れ、以下のような産学連携活動を行っていくことになりました。

すなわち、まずは各種シンポジウム、講演会を通じて、産学官の連携活動に対する提言を行うことです。具体的には、既に本誌2月号において詳しくご報告いただいたように、昨年開催された当学会主催の飛行機シンポジウムと宇宙科学技術連合講演会において、貴工業会からもパネリストとして参加いただき、産学連携に関するパネルディスカッションを行いました。去る4月19日に開催された第44期年会講演会においても、継続して貴工業会からご意見をいただくことができました。将来の航空宇宙界がどうあるべきか、そしてそれを実現するためには何をなすべきかといった大局的な立場からの議論を行う中で、産学連携と人材育成の重要性について意見を交わさせていただきました。

また、相互の活動を相互の会員各位及び一般の方に知ってもらう機会として、主要な展示会でブースを設け、貴工業会殿には学会の

活動をJA2012にて紹介していただき、当学会では貴工業会の活動をISTS等の講演会にて紹介させていただく予定です。

もっと身近な産学連携を睨んだ活動として、当学会に所属する学会員が個々に有する専門知識を活用して、特に、企業の若手技術者の人材育成の一助となるべく、当学会から出前講習を行う制度も立ち上げました。この活動についても本誌2月号において既にご紹介いただいたとおりです。

ところで、産学連携を推し進めようと申し上げるのは容易ですが、そのためには大学や研究所においてどのような活動がなされているかについて企業の皆様が常に把握されていることも必要です。その一助となるべく、当学会の賛助会員団体であれば、当学会が毎年開催している国内講演会の全てに、事前登録なしに、その会員口数に応じた社員の方が無料で参加できる制度を新たに設けました。当学会では、航空システム、空気力学、構造力学、宇宙工学等の航空宇宙工学の全分野にわたって講演会を開催しております。この制度を活用いただくためには、当学会の賛助会員（団体）に入会いただく必要はありますが、これによって興味を持たれた最新の航空宇宙工学に関する情報を容易に収集いただけます。

一方、貴工業会が主催されているSJAC講演会に関して当会へもご案内いただけることになりました。この講演会を聴講させていただくことで、航空宇宙産業界で一番ホットな話題を当会の会員が直接伺えることになりました。大学関係者も多く含まれる当会の会員にとっては、貴重な情報収集の機会となり、産業界から見て有用な研究テーマが立ち上がる端緒となるかもしれません。

航空宇宙界を益々発展させるためには、将来の航空宇宙界の発展を実現するためのビジョンを大局の見地から議論できること、産学官それぞれの得意分野を常々把握できる体制を確立しておくこと、そして各の技術を磨くことで個人が有する能力アップを図る機会を用意すること、といったマクロ的視点からミクロ的なものへ至る様々な産学連携に関連した活動が必要であります。ここで紹介させていただいた貴工業会と当学会間の産学連携に向けた幾つかの取り組みによって、両会間での交流と情報交換が地道にかつ着実に進んでいくものと期待しております。そしてこの活動が、我が国の航空宇宙界の発展に少しでもつながることを願ってやみません。最後になりますが、今回の連携活動の立ち上げに際して、ご理解とご協力をいただいた日本航空宇宙工業会の皆様に感謝の意を申し上げます。